

令和 2 年 5 月 18 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K12113

研究課題名(和文) アート×医療：演劇を必修科目とする卒前看護教育プログラムの開発と効果の検証

研究課題名(英文) Art and Medicine: Development and Evaluation of the Effectiveness of a Pre-Graduate Nursing Education Program with Theater

研究代表者

岡崎 研太郎 (OKAZAKI, Kentaro)

名古屋大学・医学系研究科・寄附講座講師

研究者番号：90450882

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：看護教育の分野にとどまらず、また、卒前教育だけに限定したものではない、生涯における学びという長期的視点に立った教育プログラムを開発した。すなわち、卒前卒後を通じた医療系教育プログラムとして、コミュニケーションや共感力の向上を目的とした「演劇を用いた医療系教育ワークショップ」のプロトタイプを確立することができたと言える。今後は、プログラムを継続的に実施し、長期的なアウトカム評価をしていく予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今後、看護・医学・薬学などを学ぶ医療系学生がこのようなプログラムを学部生時代に学習する時代がやってくると想定している。こうした体験型の学習によって、彼らが卒業後に医療分野で働く際に、社会から必要とされている、コミュニケーション力や共感力を十分に持ち合わせた専門家として患者さんに向き合い、信頼を勝ち得ることを期待している。その結果、患者さんの生活の質が向上し、健康寿命が延びることを最終的な目標としている。

研究成果の概要(英文)：We have developed an educational program that is not limited to the field of nursing education, nor is it limited to pre-departure education, but is based on the long-term perspective of lifelong learning. In other words, we established a prototype of a "medical education workshop using theater" to improve communication and empathy as a medical education program through pre- and post-graduates. We plan to continue to implement the program and evaluate the long-term outcomes.

研究分野：医学教育

キーワード：卒前教育 看護教育 演劇 コミュニケーション ワークショップ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

#### (1) 疾患構造の変化と医療者に求められるものの変化

感染症が命を脅かす重大疾患の代表であった時代は過ぎ去り、今や癌、糖尿病に代表される慢性疾患が死亡原因の70%以上を占める時代となった。慢性疾患は手術や薬で治癒するという性格のものではなく、禁煙、健康的な食事、定期的な運動習慣、節酒など生活習慣の修正が治療において大きな要素を占める。また、看護師が患者に共感的にかかわることは、患者が人生の意味を見出すことや希望を持つことと関係するとされ、看護師は患者自身からの報告に頼ってケアをしなければならず、共感を通して患者の体験を推測することが必要になる。このため医療者、とりわけ看護師には、患者と上手にコミュニケーションを取り、患者の話に共感し、患者の不安を軽減し、望ましい健康行動へとつなげていく態度やスキルを習得しておくことが求められている。

#### (2) 知識偏重の教育から態度・行動も含んだ教育へ

しかし、現実には看護学部、医学部、薬学部等の医療系学部に通じて、年々増加していく一方の医療知識の修得に多くの時間が割かれており、医療現場で真に必要な実践的な能力やスキルの修得は二の次となっている。2006年に日本医学教育学会から「行動科学教育を考える - プロフェッショナルの教育をめざして - 」と題した報告書が刊行されたが、それから10年が経過した現在においても、コミュニケーションや共感などの態度・行動に関する教育プログラムは、大学間の差が大きく、全体的に見れば、その量と質はまだまだ不十分というのが実情である。

#### (3) コミュニケーション能力を育むには

2015年度の日本経済団体連合会調査によれば、企業が新卒採用者の選考にあたって特に重視した点としては、「コミュニケーション能力」が85.6%と12年連続で1位であったという。しかし、前述したように卒業前の学部教育においてはコミュニケーションスキルの獲得と向上、共感性に基づく良好な医療者 - 患者関係の形成といった臨床現場で活用できる「臨床の知」(わざ)を学びたいという学生のニーズはまだ十分に満たされていないのが現実である。その一因として、これらの「臨床の知」は、患者中心の医療やエンパワーメントなどの理念(マインド)を背景としていることが考えられる。このような理念を伝えるには、講義形式は必ずしも最適とは言えず、新たな学習方法が模索されてきた。

### 2. 研究の目的

こうした背景を踏まえて、本研究では以下の二点を主要な目的とした。

#### (1) 演劇を用いた卒前看護教育プログラムを確立すること

慢性疾患が主体である時代に即し、医療現場でのコミュニケーション力や共感性の重要性を理解し、自然な形でこれらの力が身につくような演劇を用いた教育プログラムを作成する。

#### (2) 上記教育プログラムの有効性を検証し、その普及を図ること

現在実施されている授業実践を評価し、学生や教員のニーズアセスメントを実施するとともに、プログラムの改良を図り、最終的なプログラムを完成させる。この完成した教育プログラムを現場で実施し、コミュニケーションや共感の観点から、量的・質的両側面における有効性を検証する。

### 3. 研究の方法

学生が発表した演劇の部分は同意を得て録画し、一部については劇中に含まれる要素の分析を実施できた。さらに、履修学生を対象としたアンケート調査も実施した。これらの結果を踏まえ、研究代表者と研究協力者、ティーチングアシスタントの演劇人らで振り返りをおこない、ロールプレイとの比較なども含めて、現行の授業の評価点と改善点を明らかにすることができた。

### 4. 研究成果

#### (1) 演劇を用いた卒前教育プログラムの内容

天理医療大学における必修選択授業「生命と芸術実践演習」のうち、演劇を用いたものを、学生アンケートの回答結果や演劇発表部分の動画、授業担当講師での振り返りなどを通じてブラッシュアップしていった。なお、第4回の内容については、了徳寺大学でも看護学生を対象に単回の特別講義形式で実施し、劇の創作と発表を問題なく完了することができた。最終的に表1のようなプログラムが完成した。

表1. 演劇を用いた卒前看護教育プログラム

目的	学生自身の固有経験を踏まえて演劇の作品制作に取り組む 自らの作品を俯瞰的に捉え直す場面も取り入れ、表現と間主観性の関係を考える。また、学内で公開していくことを目指す
目標	演劇演習・活動を通してコミュニケーション能力の向上を図る チームパートナーシップおよびチーム統合能力の育成を目指す 演劇のトレーニングに触れることで、今後の社会人に必要とされる表現力・プレゼンテーション能力を獲得する

スケジュール ・全6回 ・1回あたり90分×2~3コマ	第1回 オリエンテーション
	第2回 コミュニケーションゲーム(インプロを含む)
	第3回 演劇ワークショップ
	第4回 糖尿病劇場と演劇創作体験
	第5回 グループ創作
	第6回 発表会およびリフレクション

### (2) 演劇創作体験における劇の要素分析

運行は演劇の三要素として、「人物」「時空」「事件」を挙げている。前述したプログラムの第4回で「医療×演劇」をテーマに学生が1時間で作成・発表した劇に含まれる要素をこれに沿って分析した結果を表2に示す。

表2. 演劇創作体験における劇の要素分析

人物	医師、看護師、大学生、患者(幼児から高齢者まで)、患者の家族、友人、など
時空	病院、クリニックなどの医療機関の病室、手術室、ナースステーション、高齢者が入所している介護施設、家庭、レジャースポット、など
事件	大学生のデート、医療スタッフ同僚との恋物語(恋愛感情の告白や二重恋愛の発覚とその後)、ドライブ、高齢者入所介護施設での日常風景、頻回なナースコール、予防注射、診察や検査(心電図、血液検査、内視鏡検査、など)治療(投薬、手術)、病気の発症や外傷の受傷、病状説明(悪い知らせの告知)、病状の進展(治癒、悪化、死亡)など

### (3) 演劇を用いた卒前教育プログラムの評価

学生アンケートの結果と教員の振り返りからは、「知識と技術の習得にフォーカスしがちな学生の視野が広がった」、「学科をまたいだ他学年にわたる行動学習が無理なく実施できた」、「自分に厳しくあることだけでなく『楽しむことも大切』という視点を学生が獲得できた」という効果が明らかになった。さらに、参加学生のコミュニケーション能力の向上に寄与している可能性が示唆された。ただし、共感力の向上については、十分に評価することができなかった。

### (4) 新たなロールプレイ「市民健康相談」の開発

前述のプログラム実践から、京都光華女子大学看護学科での授業において、演劇的要素を取り込んだロールプレイのワーク「市民健康相談」を開発した。また、これを医療者向けに修正し、2018年12月に名古屋、2019年4月に名古屋、11月に京都で、患者とのコミュニケーションに焦点を合わせた医療者向け研修会を実施した。この過程で、ワークの内容を修正・改善していくことができた。この成果については、すでに学会発表済みであり、現在医学教育系の雑誌に投稿準備中である。

### (5) 他分野への拡張可能性

ニュージーランドで開催された国際演劇教育学会(IDIERI)に参加し、主として教育分野の研究者と交流することで、私たちの実践活動は応用演劇(applied theatre)というジャンルに含まれることを知るとともに、参考となるジャーナルや書籍など、医学看護とは異なる関連領域の情報を得ることができた。この経験からは、演劇を用いた教育プログラムは、高齢社会における認知症に関する関わり方や死の教育など悪い知らせの伝え方、などをテーマとした教育にも親和性が高く応用可能性を持つと考えられた。また、2019年6月には、愛知県内4大学医学部の地域枠学生を対象に外部講師を招き、インプロ(即興演劇)の体験と、ダンスを取り入れたミュージックビデオ制作のワークショップを「Playful Medicine」と題して実施した。この内容については、現在医学教育系の雑誌に投稿準備中である。

### (6) まとめと今後の展望

看護教育の分野にとどまらず、また、卒前教育だけに限定したものではない、生涯における学びという長期的視点に立った教育プログラムを開発することができた。すなわち、卒前卒後を通じた医療系教育プログラムとして、コミュニケーションや共感力の向上を目的とした「演劇を用いた医療系教育ワークショップ」のプロトタイプを確立することができたと言える。今後は、2020年度に採択された科研費助成事業によって、海外の研究者・実践者との協働により、近年注目されてきているMedical Improv(メディカルインプロ)を取り入れた新たな内容の医療系学生教育プログラムを作成し、バリエーションを増やすとともに、学生など参加者の変化に焦点を合わせた長期的なアウトカム評価をしていきたいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計33件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 20
2. 論文標題 人々の「健康」をいかに支えるか 銭湯と地域住民の健康の関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本赤十字看護学会誌	6. 最初と最後の頁 152-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 24
2. 論文標題 対話する医療 人々のケアにおける対話(ダイアログ)とは	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年看護学	6. 最初と最後の頁 17-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 272
2. 論文標題 対話 ダイアログのはじめかた(Vol.6) 対話とマインドフルネス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 687-690
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 272
2. 論文標題 対話 ダイアログのはじめかた(Vol.5) 医師と患者のダイアログ、医学のあゆみ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 355-359
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kentaro Okazaki, Tomotaka Shingaki, Zihong Cai, Magaly Perez-Nieves, Lawrence Fisher	4. 巻 10
2. 論文標題 Successful Healthcare Provider Strategies to Overcome Psychological Insulin Resistance in Japanese Patients with Type 2 Diabetes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Diabetes Therapy	6. 最初と最後の頁 1823-1834
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.1007/s13300-019-0664-9">https://doi.org/10.1007/s13300-019-0664-9</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 271
2. 論文標題 対話 ダイアログのはじめかた (Vol.4) オープンダイアログと未来語りのダイアログ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 1331-1334
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 271
2. 論文標題 対話 ダイアログのはじめかた (Vol.3) 共感のための対話 非暴力コミュニケーション	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 744-748
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 271
2. 論文標題 対話 ダイアログのはじめかた (Vol.2) 不確実性に寛容になる 対話において重要なこと	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 381-384
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 270
2. 論文標題 ダイアログのはじめかた (Vol.1) 対話(ダイアログ)とは何か	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 1247-1250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 101
2. 論文標題 対話 応用編 市民と医療者の対話 みんなるカフェ/まちけんダイアログ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 治療	6. 最初と最後の頁 863-866
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 101
2. 論文標題 対話 応用編 映画とダイアログ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 治療	6. 最初と最後の頁 858-862
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 101
2. 論文標題 プライマリ・ケアと対話 銭湯と対話 「裸の付き合い」というコミュニケーション	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 治療	6. 最初と最後の頁 799-802
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suenaga Eriko, Ren gyo, Ando Hanae, Kamimoto Akiko, Kuroki Yoko, Tanaka Saho, Masui Hirofumi, Taniguchi Tadahiro	4. 巻 32
2. 論文標題 The Effect of the Design of the Number of Poles on the Communication-field	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Transactions of the Institute of Systems, Control and Information Engineers	6. 最初と最後の頁 455 ~ 466
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.5687/iscie.32.455">https://doi.org/10.5687/iscie.32.455</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 運行	4. 巻 63
2. 論文標題 コミュニケーション場のメカニズムデザイン 人を含めたシステム設計論と未来の対話空間に向けて VI 演劇ワークショップ:ロールプレイと意見表出	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 システム/制御/情報	6. 最初と最後の頁 519-524
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 78
2. 論文標題 これからの時代に求められる患者-医療者関係 「対話」の重要性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 病院	6. 最初と最後の頁 816-819
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 50
2. 論文標題 患者の語りを用いたプロフェッショナリズム教育 患者のナラティブ動画を活用した医学教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 507-511
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Park Yoon Soo, Kamin Carol, Son Daisuke, Kim Ginnie, Yudkowsky Rachel	4. 巻 102
2. 論文標題 Differences in expectations of passing standards in communication skills for pre-clinical and clinical medical students	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Patient Education and Counseling	6. 最初と最後の頁 301 ~ 308
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.1016/j.pec.2018.09.009">https://doi.org/10.1016/j.pec.2018.09.009</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 孫 大輔, 三澤 仁平, 牛山 美穂, 畠山 洋輔, 松繁 卓哉	4. 巻 29
2. 論文標題 医療者教育における「患者視点」に付随する諸課題と熟議アプローチの可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 保健医療社会学論集	6. 最初と最後の頁 74-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫 大輔	4. 巻 1287
2. 論文標題 医療者が患者の声に向きあうため ダイアログの重要性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 保団連	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫 大輔	4. 巻 29
2. 論文標題 地域包括ケアにおける医師 医師に求められる「対話」と「連携」とは	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 保健医療社会学論集	6. 最初と最後の頁 17-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 孫 大輔, 塚原 美穂子	4. 巻 41
2. 論文標題 不確実性に耐える オープンダイアログがプライマリ・ケアにもたらす新たな可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本プライマリ・ケア連合学会誌	6. 最初と最後の頁 129-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 舘野 泰一, 保田 江美	4. 巻 28
2. 論文標題 全員がリーダーシップを発揮し合えるチームをつくる 看護現場に「全員発揮のリーダーシップ」を取り入れる方法論とは	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護管理	6. 最初と最後の頁 1086-1093
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 保田 江美	4. 巻 28
2. 論文標題 看護の職場における「シェアド・リーダーシップ」の有効性 全員がリーダーシップを発揮する組織文化を創る	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護管理	6. 最初と最後の頁 1063-1069
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 保田 江美	4. 巻 28
2. 論文標題 これまでのリーダーシップ論の変遷 看護の職場における「自分なりのリーダーシップ」を考えるために	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護管理	6. 最初と最後の頁 1054-1062
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 保田 江美	4. 巻 59
2. 論文標題 チーム内でシェアド・リーダーシップが発揮されるよう支援しましょう	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護教育	6. 最初と最後の頁 660-663
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊奈穂、岡崎研太郎、運行、渡辺賢治、井上真智子	4. 巻 9
2. 論文標題 持続可能な多世代共創コミュニティづくりに向けた多世代演劇ワークショップのもつ可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mina Suematsu, Sundari Joseph, Keiko Abe, Hiroki Yasui, Noriyuki Takahashi, Kentaro Okazaki, Jenni Haxton, Morag McFadyen, Patrick Walker, Lesley Diack.	4. 巻 80
2. 論文標題 A Scottish and Japanese experience of patient-centred diabetic care: descriptive study of interprofessional education on live webinar	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Nagoya Journal of Medical Science	6. 最初と最後の頁 465-473
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi: 10.18999/nagjms.80.4.465	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 岡崎研太郎	4. 巻 34
2. 論文標題 演劇を用いた医療者教育ワークショップ「糖尿病劇場」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Medical Practice	6. 最初と最後の頁 1536-1542
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 100
2. 論文標題 知っ得!手段 地域社会参加型研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 治療	6. 最初と最後の頁 40-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 100
2. 論文標題 知っ得!手段 地域診断	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 治療	6. 最初と最後の頁 36-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫大輔、平澤南波	4. 巻 8
2. 論文標題 プライマリ・ケアで用いられる医学用語の誤解に関する市民と医療者の認知の差	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌	6. 最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 51
2. 論文標題 作業療法を深める ヘルスコミュニケーション ダイアログが切り開く新しい地平	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 作業療法ジャーナル	6. 最初と最後の頁 1122-1126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫大輔	4. 巻 2
2. 論文標題 医療者と患者のコミュニケーション 対等な立場として関係性を築く	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 在宅新療0 100	6. 最初と最後の頁 490-495
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 岡崎研太郎
2. 発表標題 演劇を活用した医療者コミュニケーションの試み 「糖尿病劇場」からの学び
3. 学会等名 第14回医療の質・安全学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 蓮行
2. 発表標題 体験!医療者コミュニケーションへの演劇的手法の活用
3. 学会等名 第14回医療の質・安全学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kentaro Okazaki, Ren Gyo
2. 発表標題 Learning from a drama workshop with elderly people certified for long-term care/support need in a day service center
3. 学会等名 9th International Drama in Education Research Institute (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 蓮行
2. 発表標題 演劇的手法を用いた卒前看護教育プログラム「模擬健康相談」の提案
3. 学会等名 第25回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡崎研太郎、井上真智子、孫大輔、渡邊奈穂、蓮行
2. 発表標題 プライマリ・ケアにおける演劇の可能性を考える ～病院・診療所から学校、コミュニティまで～
3. 学会等名 第9回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡崎研太郎、高橋徳幸、末松三奈
2. 発表標題 演じることは悪いことか？
3. 学会等名 第4回日本糖尿病医療学学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡崎研太郎、蓮行、高橋徳幸、末松三奈、肥田武、阿部恵子
2. 発表標題 医療系卒前教育における演劇ワークショップの活用
3. 学会等名 第49回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 岡崎研太郎 (伴信太郎/生坂政臣/橋本正良 編集)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 546 (377-379、498-499)
3. 書名 総合診療専門医マニュアル	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	孫 大輔 (SON Daisuke)  (40637039)	東京大学・大学院医学系研究科(医学部)・講師  (12601)	
研究分担者	蓮 行 (REN Gyo)  (10591555)	大阪大学・人間科学研究科・特任研究員  (14401)	
研究分担者	岡田 浩 (OKADA Hiroshi)  (10533838)	独立行政法人国立病院機構(京都医療センター臨床研究センター)・臨床研究企画運営部・研究員  (84305)	
研究分担者	屋宜 譜美子 (YAGI Fumiko)  (30320708)	了徳寺大学・教養部・教授  (32526)	
研究分担者	保田 江美 (YASUDA Emi)  (20803258)	国際医療福祉大学・成田看護学部・講師  (32206)	